# 第5講

## 人文科学系(5)
## 主体的・対話的で深い学び

チャプター1

## 資料読解

生徒メモ欄

1　地図を片手に教室を飛びだそう!

1　「京田辺(きょうたなべ)市って何が有名?」—— 4月の最初の授業で聞いてみると,「何もないやろ」「田んぼ」「どこまでが京田辺?」…。

2　そんなところから1年の授業が始まります。歴史は教科書の中だけのものではなく,少し足を伸ばせば,すぐそこに触れられるものだと知ってもらいたい。そんな思いでこの授業を担当しています。

3　学校のある京都府京田辺市は,京都府とはいっても,路線バスは鹿のマークの「奈良交通」が走るなど,現在でも奈良とのつながりが色濃く感じられる地域です。古代から,平城京と平安京の中間に位置し,山陰・山陽道の駅家(うまや)もありました。どんな地域にも固有の歴史がありますが,古代までさかのぼって,しかも教科書でおなじみの有名な事象と密接に関わるものが数多く残っているという点で,京田辺市はまさに,知られざる歴史の宝庫です。

4　学校から徒歩20分圏内に,弥生時代の集落跡,継体(けいたい)天皇の筒城宮(つづきのみや)伝承地,小規模古墳群,天平期の木心乾漆(もくしんかんしつ)十一面観音像(国宝),中世の国人(こくじん)の城館が集中する谷筋,自由民権運動の盛り上がりの中で地元名士たちによって建てられた私塾の跡地などがあり,さらに少し足を伸ばせば,この地域にはめずらしい前方後方墳や,「とんち」で有名な一休が晩年を過ごした寺もあります。

5　授業は2時間連続週1回で,4週に1回程度は授業中に現地に出向いて学ぶことを柱にしています。

単元構成

| | |
|---|---|
| 1<br>(4月) | 《出かける準備をしよう》<br>・ My地形図の作成・地形図の読み取り<br>・ 徒歩5分にある田辺天神山弥生遺跡　●弥生時代 |
| 2<br>(5月) | 《玉露のまち・京田辺》玉露農家出島さんの茶園<br>・ 日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」<br>・ 玉露に特化した地域のブランド化　●現代 |
| 3<br>(6月) | 《古代の京田辺》<br>遺跡地図を観察し，読み取ったことをMy地形図に記入<br>京田辺市教育委員会山崎さんの出前授業<br>・ 石室が残る小さな古墳　下司古墳群　●古墳時代 |
| 夏休み | 《文化祭準備》<br>・ 授業では行けない距離にある場所をグループで調査 |
| 4<br>(9月) | 《となりの国宝》観音寺<br>・ 観音寺十一面観音像が語る平城京文化　●奈良時代 |
| 5<br>(10月) | 《中世の京田辺》都谷中世館跡群<br>・ 中世城館は何のために誰が築いた？　●戦国時代 |
| 6<br>(11月) | ・ アニメ『一休さん』から読み取る一休の思想　酬恩庵一休寺<br>・ 伽藍配置にあらわれる禅宗寺院の特徴　●南北朝～戦国時代 |
| 7<br>(1月) | 《京田辺 と校祖新島襄》「南山義塾」の石碑<br>・ 校祖新島襄（にいじまじょう）が残した，南山義塾開校式の祝辞の原稿<br>《オリジナルパンフレットの作成》 |
| 春休み | 天王集落フィールドワーク<br>京田辺市の最西端から現地見学の場を巡りながら学校まで歩く |

2　地元でもない「地域」を何のために学ぶ？

6　本校は帰国生徒受け入れ専門校として開校し，現在も全校生徒の約3分の2を占める帰国生徒と，3分の1の国内一般生徒が同じ教室で学び合っています。

7　学寮も併設されているため，生徒の出身地域はさまざまで，校内では関西弁，標準語，英語，中国語などさまざまな言

生徒メモ欄

生徒メモ欄

語が飛び交っています。多くの受講生にとって京田辺は「生まれ育った地元」ではないので，郷土を愛する心を育てる郷土学習との違いは常に意識しています。

8　地域の歴史が，日本史の大きな流れに影響を受けながら展開していること，逆に地域の動きが日本史の大きな流れを生み出していることに気づき，歴史とはどういうものかを地域を通して見つめる目を養うことを授業のねらいとしています。

3　地形図を授業の縦軸に

9　1か月に1回程度の現地見学会を授業の柱に据え，それに向けての事前学習，訪れた上での事後学習を1単元としています。

①My地形図を作ろう

10　まずは1年間の旅を共にする地形図を作成します。25,000分の1地形図を4枚貼り合わせ，「京田辺市はどんな形？　高低差は？　土地利用は？」などを読み取り，思い思いの色を塗っていきます。地形図を1年間の学習の縦軸に据え，学習の記録が地形図に重層的に残るように意図しています。

②歩くから見えるものがある

11　目的地だけではなく，学校との距離感，高低差，植生なども体感してほしいので，移動はなるべく徒歩でおこなうようにしています。My地形図を見て自分たちで道を決めさせたり，道中で発見したものも現地見学シートに記録させたりと，いろいろ工夫はするものの，教室を出た開放感から，景色には目もくれず友だちと話し込む姿もしばしばです。それでも自分の足で歩いた感覚はきっと体に染みこんでいるはず。生徒自身が五感を通して感じることを学びの入り口にしたいと考えています。この点については，「都谷中世館跡群」の単元を例に後で具体的に述べたいと思います。

③集大成はオリジナルパンフレット

12　1年間のまとめとして，オリジナルパンフレットを作成します。作成にあたり，担当者が提示する条件は，手書きの地図を付けることと，授業で訪れた場所は必ず解説を付けることの2点だけです。形式や構成はまったく自由なので，毎年工夫を凝らした作品が数多く見られます。

4　プロセスを評価する

13　評価は，学年末テスト（年3回）72%，現地見学シート（年8回）18%，オリジナルパンフレット（3学期末）10%でおこなっ

ています。

⑭　現地見学シートとオリジナルパンフレットでは，道中の景色や見学対象を細部までしっかり観察しているか，自分の感性を通して重要なものや印象的なものがはっきりわかるようなまとめになっているか，などを評価基準としています。

⑮　一方でペーパーテストも重視しています。これは，冒頭で述べた科目の目的とつながっています。高校3年生が身に付けるべき基礎的学力とはどのようなものかを常に考え，地域の歴史に関連づけて日本史で習う基礎的な事項がきちんと習得できているか確認するようにしています。

5　道なき道を行く

⑯　「今度の現地見学は1年で一番ハードです。汚れてもいい靴，長ズボンで来てね。道，ないからね！」

⑰　10月，学校のすぐ向かい側にある同志社大学京田辺キャンパス内の都谷中世館跡群に向かいました。同志社大学歴史資料館の先生に案内していただいて，大学生でにぎわうキャンパス内を抜けて雑木林に入ると，雰囲気は一変。室町時代にタイムスリップしたような不思議な空気に包まれました。

⑱　防御性を高めるために築かれた細長い土塁の上で，先生が「敵は下から駆け上がってきます。下から上を見上げたらどんな景色か，確かめに行ってみる？」と語りかけると，しばらくはためらっていた生徒たちですが，やがて希望者数名が土塁の下に広がる急な崖を全速力で駆け下りていきました。上に残った生徒は「こんなん，下からより上から攻撃するほうが絶対有利やん」「石とか木の枝，投げたんかな？」…。中世の戦いのシーンが眼前に豊かに広がった瞬間でした。

⑲　「館跡から，戦って亡くなった人の骨とか出てくるんですか？」という生徒の質問に，先生は「戦場では遺体を処理する専門の集団がいるから，人骨はまず出てこないよ。鎧（よろい）などは剥ぎ取って売り，遺体は火葬するんだよ」と教えてくださいました。

⑳　現地に立った生徒は，その場所の歴史に留まらず，そこから思い思いに発想を広げて学んでいきます。その道のプロに接する機会を持つことで，何か一つのことを追究することのおもしろさを感じ取れるのではないかと思い，年に数回はこのように外部講師を招いて，生徒に直接語りかけていただくようにしています。

6　館に住んだのはどんな人？

㉑　現地見学で中世城館のイメージが一気に具体的になった

生徒メモ欄

生徒メモ欄

生徒たちですが，そこに住んだのはどんな人かはまだイメージができません。

㉒　そこで事後学習では，「そこに住んだ人についてもっと具体的に知るには，どんな資料を探せばよいだろうか？」と問いかけ，担当者が作成した「普賢寺衆（ふげんじしゅう）関係資料一覧」（『京都府中世城館跡調査報告書』第4冊をもとに「普賢寺衆」関係資料と出典を一覧にしたもの）を提示しました。「普賢寺」は都谷館跡群の字（あざ）名です。『大乗院寺社雑事記（だいじょういんぞうじき）』や『多門院日記（たもんいん）』など著名な中世資料の中に，「普賢寺衆」と呼ばれた国人層に関する記述が複数見られるのですが，それらはいずれも応仁の乱から山城国一揆の時期，そして織田信長が畿内を平定していく時期に集中しています。

㉓　高校生には少し難しい教材ですが，現代語に訳し，簡潔に記すことで，生徒が持っている応仁の乱や山城国一揆の既存の知識を使って，日本史で学ぶ内容と今回学んでいる館跡との接点を自分自身で読み取れるよう意図しました。なるほどという反応もあった一方で，日本史Bを選択していない生徒にとってはあまりピンと来なかったようで，日本史に関する知識の量に大きな差がある生徒に対してこのような授業をおこなうことの難しさを痛感しました。

7　「自分で発見した！」と感じられる授業とは

㉔　2017年の歴教協神奈川／関東大会高校分科会で，この授業実践について報告をしました。準備段階からたくさんの方に貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見には，根底に共通するものがあったと感じています。それは，生徒自身が現地見学を企画したり，調べたことを他の生徒に伝えるなど，生徒が主体的に取り組む機会をもっと増やせるのではないかということです。

㉕　この授業を担当した当初は，自分自身が知識ゼロからのスタートだったため，学んでいくプロセス自体を共有するというスタンスで授業をおこなってきました。しかし，それがいつのまにか私自身の興味の押し付けになっていた面があるのではないか。授業を担当して今年で4回目となり，授業のスタンスについてもう一度立ち止まって考える時期にきていると認識するようになりました。

㉖　また，この科目の設定に携わった前任の担当者は，本科目を歴史系科目として発想していましたが，その意図を正しく踏襲できているかということも疑問に感じています。現地に立てば，生徒は自分自身の感性でさまざまなことを発見し，

学んでいきますが，それが「未発見の歴史を自分が見つけ出した！」という「歴史の発見」には至っていないのではないか。1年間の学習を終えた受講生にとっても，歴史は相変わらず教科書の中のものなのではないか。このような反省から，現在は次のようなことを考えています。

㉗ まず，代々京田辺市に住んでいる人に昔の話を聞くこと。2015年の春休みに，市最西端に位置する山間の集落に昔から住んでおられる方を，生徒とともに訪ねたところ，子どものころにはまだ牛耕が見られたこと，地域の道を通すとき朝鮮人労働者が使役されていたことなどを語ってくださいました。ただし，このような場を授業時間内にどう設定できるのか，課題も多いと思います。

㉘ 二つめは，地域に残る古文書の活用です。2017年度に市制施行20周年を迎えた京田辺市は，これから10年がかりで新たな市史の編纂（へんさん）に取り組むことを発表しました。市史編纂に向けて古文書を整理したり，内容を検討したりする作業に，もしボランティアのようなかたちで生徒が関わることができれば，一生ものの体験になるはずです。

〔出典〕 佐藤 靖子「現地に立って学ぶ―高三選択科目『地域研究京田辺』の取り組み」歴史地理教育875号，2018年2月，pp.46-51。
なお，一部文章に修正を行っている。

（東京学芸大学 教育学部 2021）

生徒メモ欄

チャプター2

# 問題およびヒント

問題を見てみよう

本文に言及しながら「主体的・対話的で深い学び」をもたらすために重要だと思う点を下欄の言葉をすべて用い，1,200字以内（句読点等を含む）で論述せよ。言葉の使用順序は自由であり，同じ言葉を何度用いても構わない。ただし，使用した言葉は該当箇所すべてを□で囲むこと。

学校外の学習施設　地域と学校の連携
生涯学習ボランティア　経験　感性
発見　学びあい　生きがい

解答案をつくってみよう

(　　　　　字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 設問の理解 | 出題の意図および背景の理解 | S | A | B | C | F |
| 意見（主張） | 設問と意見との関係 | S | A | B | C | F |
| | 独自性・独創性・発展性 | S | A | B | C | F |
| 理由（根拠） | 事実に基づいた論証 | S | A | B | C | F |
| | 重要性・問題性 | S | A | B | C | F |
| 論理性・簡潔性 | 適切な論理展開 | S | A | B | C | F |
| | 簡潔な記述 | S | A | B | C | F |
| 表記・表現 | 誤字・脱字 | S | A | B | C | F |
| | 段落の設定 | S | A | B | C | F |
| | 制限字数 | S | A | B | C | F |
| | 文体の統一 | S | A | B | C | F |
| | 表現技法 | S | A | B | C | F |

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

# 答案例①

　主体的な学びに最も重要なことは、自ら問いを立てることである。しかし、教科書などの既に確立された知識体系に問いを立てることは困難だ。そこで学校外の学習施設や学習環境が必要になってくるのではないだろうか。課題文のように自ら足を運び、距離や地理、季節や気候を体感することは、常に同じ環境で学ぶ座学では体験できない大きな学びをもたらす可能性がある。そのためフィールドワークは重要な学びの機会と言えるだろう。

　問いを立てることは、自分にとって不明である、謎であることを知るということだ。未知と既知があることの発見であり、それらは各人の経験や持ち合わせた感性によっても変わってくるだろう。課題文のような帰国生が多数いる学校であれば、様々な国での経験を持つ生徒がそれぞれ特異の経験を持っており、各人の差が一層引き立ち、多様性の受容に結び付くと考えられる。すなわち問いを立てることは自己を知ることであり、他者の存在を知ることだ。多様な他者の、様々な考え方について想像、承認、理解をするためにも、自問自答を繰り返して思索を深め、説得力のある意見として成長させるためにも対話は欠かせない。そのため、主体的な学びとはおのずと対話的な要素を必要とするだろう。つまり、主体的な学びと対話的な学びとは表裏の関係なのではないだろうか。他者の学びを尊重することが対話的な学びなのだといえよう。そこで生涯学習ボランティアの有効性や地域と

学校との連携の必要性が生まれてくるだろう。「先生と生徒」ではない人間関係の中で対等な対話をしながら得る学びは、知識のやりとりだけでない相互承認や社会貢献に結び付き、双方の生きがいへと発展していくのではないだろうか。

　学びを教科や科目で分類することは深い学びを妨げ、限定的な学びを誘発する危険性につながるだろう。課題文では地元探訪フィールドワークが当初は歴史系科目であったことが書かれ、生徒の「歴史の発見」には至らなかったのではないかとの反省が書かれているが、歴史系と限定する必要は果たしてあるのだろうか。「現地に立てば、生徒は自分自身の感性で様々なことを発見し、学んでいきます」とあるように、生徒はそれぞれに問いを立てて学んでいる。中には地形や、群生する植物や昆虫などに目を向けた生徒もいるかもしれない。歴史系科目と限定することはそのような視点からの学びの否定となり、他者との対話的な学びの機会を奪っているのではないだろうか。多様な視点からの多様な問いを個々の学び、皆の学びあいに発展させるためにも、教科、科目の垣根なく学ぶ機会が必要になるのではないだろうか。地形は戦略に結び付き、動植物の生態系は人間の生活に結び付き、全ての要素は絡まり合って存在している。1つの問いに対して様々な科目の視点から学ぶ、総合学習としての学びに取り組むことが深い学びになるのではないかと考える。

（1200字）

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 設問の理解 | 出題の意図および背景の理解 | S | A | B | C | F |
| 意見（主張） | 設問と意見との関係 | S | A | B | C | F |
| | 独自性・独創性・発展性 | S | A | B | C | F |
| 理由（根拠） | 事実に基づいた論証 | S | A | B | C | F |
| | 重要性・問題性 | S | A | B | C | F |
| 論理性・簡潔性 | 適切な論理展開 | S | A | B | C | F |
| | 簡潔な記述 | S | A | B | C | F |
| 表記・表現 | 誤字・脱字 | S | A | B | C | F |
| | 段落の設定 | S | A | B | C | F |
| | 制限字数 | S | A | B | C | F |
| | 文体の統一 | S | A | B | C | F |
| | 表現技法 | S | A | B | C | F |

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

# 答案例②

　筆者は本文で、高校生に実施した歴史系科目の授業内容について説明している。京田辺市の地形図作成、フィールドワーク、生徒同士や有識者との対話など単元構成は多岐に渡る中で、一貫して重視されているのは、生徒が五感を通して感じ、自身の手足を動かして主体的に学びに行く姿勢である。筆者は最後に、生徒が主体的に学べる機会をまだ増やす余地があったという点や、生徒が自分で歴史を見つけ出したと感じるような「歴史の発見」には至っていないという点を反省として挙げている。それらの解決策としてこの試みで経験したような、代々住まう地域住民への聞き取りの他、地域の古文書の整理、内容検討の作業への生徒のボランティア参加を提示しており、もし実現すれば生徒にとって一生ものの体験になるはずだと述べている。

　私が「主体的・対話的で深い学び」をもたらすために重要だと考えることは、年齢、性別、所属するコミュニティーなどの垣根を飛び越え、さまざまな属性を持つ人々との接遇機会をいかに多く持てるかということだ。例えば、本文中に出てくる「応仁の乱」について、教科書に掲載されている年号や主要人物を覚えておけばテストで良い点は取れるはずである。しかし、これは教科書の内容をそのままうのみにし、出来事を点としてしか把握していない受動的な学びであると言える。応仁の乱では何が起こったのか、このような争いに類似した例は他にもあるのか、どのよう

な力が働いて起こったのか、このような事態を起こすことになった当時の人たちはどのような思想を抱いていたのかなど、その時の状況を全体像で見て線で捉えようとする姿勢が大切であり、このことが主体的な深い学びにつながる。そして、ここで他人との対話が必要になる。当時の人々の生活や具体的な状況を実感するためには、実際に現地を訪れたり、地域の人に本に載っていない話を聞いたりする経験が必要になる。また、自分とは異なるコミュニティーの人たちの思考や感性に触れることで新たに得られる着眼点や気づきもあるだろう。自分で主体性を持って学び、時に対話を通じて他人の力を借り、いくつにも細分化された道を行きつ戻りつするうちに、やがて独自の「発見」に到達できるのではないだろうか。

　しかし、上記のような場を持てる場所は高校生の私たちにとって少ない。それゆえ、地域と学校の連携により、生徒を学校外の学習施設で学ばせる機会を多く提供することが有益な取り組みの一つになると考える。豊富な知識を持つ生涯学習ボランティアとの交流など、世代を超えた人々と学びあいができる環境を整えることは、生徒のみならず多くの人の生きがいにもつながるのではないだろうか。それが「主体的・対話的で深い学び」を生涯追求するのに必要なものだと考える。

(1157字)

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
| 設問の理解 | 出題の意図および背景の理解 | S A B C F |
| 意見（主張） | 設問と意見との関係 | S A B C F |
| | 独自性・独創性・発展性 | S A B C F |
| 理由（根拠） | 事実に基づいた論証 | S A B C F |
| | 重要性・問題性 | S A B C F |
| 論理性・簡潔性 | 適切な論理展開 | S A B C F |
| | 簡潔な記述 | S A B C F |
| 表記・表現 | 誤字・脱字 | S A B C F |
| | 段落の設定 | S A B C F |
| | 制限字数 | S A B C F |
| | 文体の統一 | S A B C F |
| | 表現技法 | S A B C F |

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

# レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄